

# かえりみちの できごと

〔低学年〕

森もりの おくに、たぬきの 家いえが ありました。たぬきは  
いつも なかよしの きつねと りすと いっしょに 学校がっこう  
から 帰かえりました。

夏なつの あつい 日ひの 午後ごご、三びきは、学校がっこうを出でて、森もりの  
家いえに 帰かえって いました。みんな せなかに 大おおきな  
かばんを せおっていて、とても おもそうです。と  
ちゅうで きつねが、

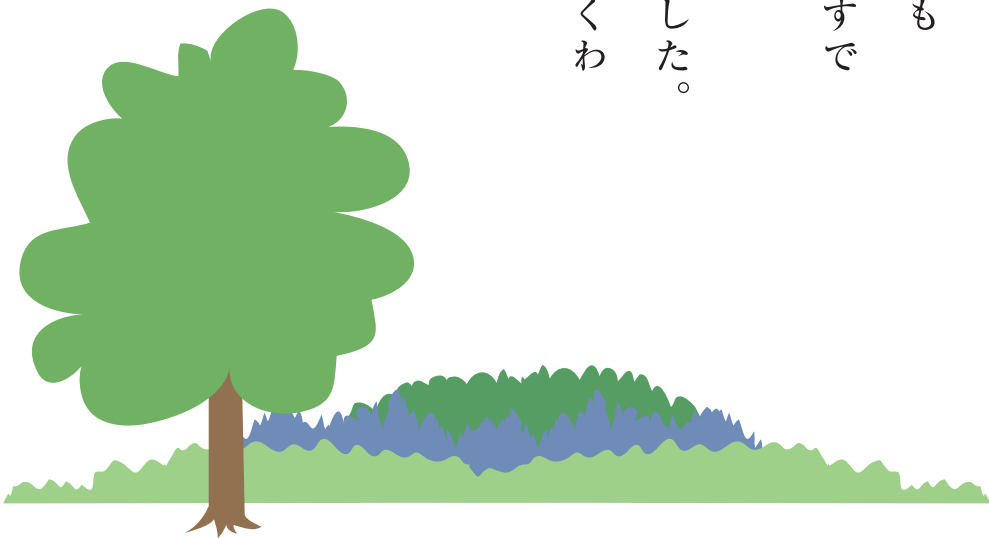
「ああ、つかれた。ここで 少すこし 休やすんでいこうよ。」  
といいながら、道みちばたの 大おおきな 石いしの上うえに かばん  
を おろし、すわりこんで しまいました。

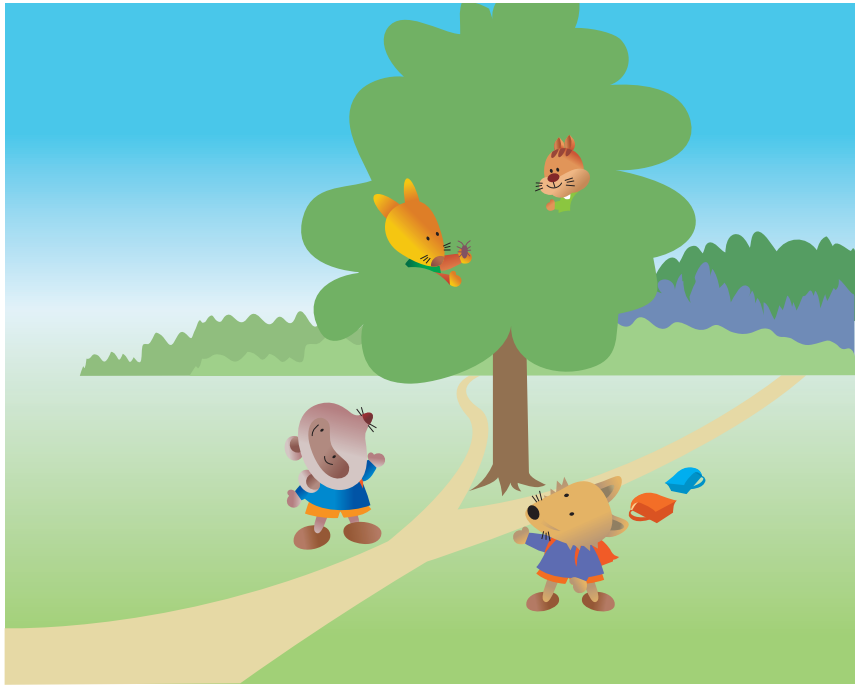


先生や 家の 人には、とちゅうで 休んだり、より道をし  
りしないで、まっすぐ 通学ろを 帰るように 言われています。  
けれど、たぬきと りすは、つかれている きつねに、何も  
言うことが できませんでした。二ひきは こまった ようすで  
顔を見合わせました。

そこへ、後から 学校を 出た おおかみが やつてきました。  
「森の 入り口に 立っている くぬぎの 木に、大きな くわ  
がたが いたよ。とりに いこう。」

「ほんとだ。くわがたがいる。」  
きつねは、かばんを おろすと、見つけた くわがたを  
つかまえようと、さっそく 木に のぼり はじめました。  
しばらくすると、





「ほら、とれたよ。」

と、とくいそうに 大きな くわがたを見せ、

「みんなも 上がって おいでよ。」

と、わらって います。木のぼりの とくいな  
りすは、

「ようし、ぼくも つかまえよう。」

そういうと、かばんを おろして、木にのぼり  
はじめました。

「だめだよ。早く 帰らないと、くらく なる  
よ。」

たぬきは、いっしょうけんめい 止めましたが、

りすは、

「すぐに おりるよ。たぬきさんも 早く おいでよ。」

と言いながら、どンドン 高い えだに むかって のぼって いきます。

たぬきは、どうしようか 考えて いましたが、しばらくして、大きな 声で 言いま  
した。

「それいじょう のぼると、あぶないよ。」

きつねと りすは、木から おりてきました。四  
ひきは、ならんで 森の おくにむかって 歩き  
はじめました。

きつねも りすも おおかみも、にこにこして  
いました。たぬきは、三びきの え顔を 見て、心  
が すうっと しました。

